

科目名	くらしと憲法（総文）				担当	藤井 志織		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年前期	実務経験	弁護士としての実務経験有	
必修	中免：必修 司教：必修				ナンバリング	KC101	DPとの関連	1・7
授業概要	実際の裁判例を題材として、憲法が実生活でどのように機能しているかを学ぶと同時に、現実の問題について考える。							
到達目標 学習成果	社会に生起する事柄について様々な考え方が有り、その背景に憲法の考え方が影響していることを学ぶ。							
授業計画	回	内容						
	1	憲法の意味、効力、構成	日本国憲法ほか、憲法というものの意味について					
	2	日本の統治機構	立法、司法、行政の三権の関係等について					
	3	戦争放棄（憲法9条）	憲法9条の解釈、戦力と自衛隊の存在について					
	4	平等（憲法14条）（1）	婚姻と男女平等、待婚期間規定について					
	5	平等（憲法14条）（2）	非嫡出子の相続分規定について					
	6	平等（憲法14条）（3）	選挙権の平等、一票の価値の較差について					
	7	表現の自由（憲法21条）（1）	プライバシーと表現の自由について					
	8	表現の自由（憲法21条）（2）	ワイセツ文書と表現の自由について					
	9	表現の自由（憲法21条）（3）	報道と表現の自由について／前半部分小テスト					
	10	信教の自由（憲法20条）	公的組織の宗教行事への参加について					
	11	経済的自由（憲法22条）	営業の距離制限と職業選択の自由について					
	12	刑事手続の保障（1）	逮捕、拘留、捜索差押令状等について					
	13	刑事手続の保障（2）	刑事裁判、刑事被告人の権利について／裁判傍聴についてのレポート					
	14	刑事手続、裁判を受ける権利	裁判員裁判について					
	15	交通事故の責任	交通事故に関する民事、刑事、行政上の責任					
評価基準	小論文式の試験を実施して、講義の内容をどの程度、理解したかを判断する。合わせ、授業中の発言等も加味する。							
評価方法	授業態度 20% 期末試験 70% 小テスト or 発表 10%							
フィードバック方法	小テストは採点して授業中に返却。裁判傍聴はレポート提出後、振り返り。							
アクティブラーニング	調べ学習							
教科書	必要に応じて資料を配布する							
参考書	必要に応じて紹介する							
履修条件	高校までで学ぶ公民的分野の基礎知識を有すること							
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から新聞に目を通し、憲法と関わる事例を注視すること</li> <li>・刑事裁判の傍聴</li> </ul>							
オフィスアワー	講義後の時間							